

『原爆文学研究』投稿規定

- 一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。なお、会員以外の原稿掲載については研究会事務局で判断します。
 - 二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。
 - 三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。
 - 四、原稿は、新字のあるものなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。
 - 五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承ください。
- 六、次号（13号）の締切は、二〇一四年九月末日です。

編集後記 第12号をお届けします。今号は一二

本の論文と四本のエッセイを掲載しております。小特集「ヒバクシヤを（語る）——核と植民地主義」は、第四二回研究会の二日目（二〇一三年九月一日）に開催した同名のワーク・ショップにもとづくものですが、今回も機関誌の発行までに時間的な余裕がなかったため、花書院への入稿ぎりぎりまでの編集作業となりました。小特集に限らず執筆者のみなさまと原稿のチェックを手伝ってくれた世話人みなさまのご尽力のおかげでなんとかこのような形で発行することができました。また、会員外からは、竹峰誠一郎氏と五味溯典嗣氏にご寄稿いただきました。本当にありがとうございます。

この一年間にも会員の本が刊行されました。事務局（あるいは中野）宛に送っていたいただいたものをご紹介します。寺沢京子氏の『大切なものつて何だろうー核・震災・そして文学』（竹林館、二〇一二年・一二）、加納実紀代氏の『ヒロシマとフクシマのあいだージェンダーの視点から』（インパクト出版会、二〇一三年・三）。石川巧氏・川口隆行氏編の『戦争を（読む）』（ひつじ書房、二〇一三年・三）、柳瀬善治氏共著の『東海の異人・奇人列伝』（風媒社、二〇一三年・四）、中谷いずみ氏の『その「民衆」とは誰なのかージェンダー・階級・アイデンティティ』（青弓社、二〇一三年・七）です。ぜひ、ご一読ください。

読者の皆さまからのご意見、ご感想などお待ちしております。

(N)

原爆文学研究 12

二〇一三年二月二十八日発行

編集 原爆文学研究会

八四〇六〇

福岡市城南区七隈八一一九一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行 (有)花書院

八〇〇〇三

福岡市中央区白金二一九一六

TEL 九三五六〇六七

FAX 九三五四四四二

定価 一、二〇〇円(本体一、四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。